

会 議 録
-------

会 議 の 名 称	令和6年度 第1回 枚方市文化芸術振興審議会
開 催 日 時	令和6年11月14日（木曜日） 午後1時30分から 午後4時00分まで
開 催 場 所	枚方市役所 別館4階 特別会議室
出 席 者	委員10名中6名出席 佐藤 友美子副会長 小川 知子委員、阪本 龍夫委員、田中 恵美委員、谷本 雅洋委員、吉富 聡委員
欠 席 者	林 伸光会長、太田 奈緒子委員、佐藤 亜友美委員、所 めぐみ委員
案 件 名	1. 案件 (1) 令和5年度における枚方市文化芸術振興計画の進捗状況について 2. その他
提出された資料等の 名 称	・資料1 枚方市文化芸術振興計画の進捗状況〔令和5年度分 総括〕 ・参考資料① 枚方市文化芸術振興条例 ・参考資料② 枚方市文化芸術振興計画（平成29年3月） ・参考資料③ 枚方市文化芸術振興計画【改訂版】（令和6年3月）
決 定 事 項	枚方市文化芸術振興計画の進捗状況を確認した
会議の公開、非公開の別 及び非公開の理由	公開
会議録等の公表、非公表 の別及び非公表の理由	公表
傍 聴 者 の 数	なし
所 管 部 署 ( 事 務 局 )	観光にぎわい部 文化生涯学習課

## 審 議 内 容

### 1. 開会

副会長:定刻になりましたので、ただいまより令和6年度第1回枚方市文化芸術振興審議会を始めさせていただきます。本日は会長が急遽欠席されておりますので、副会長の私が会議を進めさせていただきます。よろしくお願いいたします。それでは最初に、本日の審議会の出席委員と傍聴者についての報告とあわせまして、資料の確認を事務局からお願いします。

事務局:委員の皆様方におかれましては、お忙しい中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。まず初めに、委員の交代についてご報告をさせていただきます。小学校校長会からの推薦で就任していただいております寺前委員の辞任に伴いまして、新たに太田奈緒子委員が就任されております。なお、本日太田委員は、他の公務があり欠席となっております。続きまして、本日の出席委員でございますが、10名中6名の出席をいただいております。枚方市附属機関条例第5条第2項に規定する「2分の1以上の出席」を満たしておりますので、この審議会が成立していることをご報告させていただきます。また、本日の一般傍聴者は0人です。次に、本日配布させていただいております資料の確認でございますが、まず次第、それから、資料1といたしまして「進捗状況」、それから参考資料①といたしまして「枚方市文化芸術振興条例」、参考資料②といたしまして「枚方市文化芸術振興計画」、こちらは平成29年3月策定分になります。最後に参考資料③といたしまして「枚方市文化芸術振興計画【改訂版】令和6年3月策定分」、以上5点でございます。資料に過不足等はございませんでしょうか。

(資料の不足等なし)

(部長あいさつ)

事務局:それでは副会長、進行の方、よろしくお願いいたします。

### 2. 案件

副会長:それでは「案件(1)令和5年度における枚方市文化芸術振興計画の進捗状況について」事務局からご説明をお願いします。

事務局:(案件(1)「令和5年度における枚方市文化芸術振興計画の進捗状況について」の施策の柱Iを説明)

副会長:ただいま事務局から「施策の柱I」について説明いただきました。今回はできるだけ多くのご意見をいただきたいということで、感想等を含め、それぞれの施策の柱ごとにご意見をいただければと思っております。いかがでしょうか。

委員:子どもたちや障害者の方なども含めて、文化芸術を通じて交流するということで、総合文化芸術センターを当然中心に持って行って、このような活動をされているのだと思うのですが、その裾野

に生涯学習市民センターがあって、そこから中心部へ繋がっていくような、何か子どもたちも真ん中を目指して、裾野で一生懸命このような活動をどんどんしていったり高めていくような、そんな地域の小さなコミュニティーの中での交流が大きなところへ繋がっていくのではないかと思います。そのような構図がもう少し描けたら、裾野が地域全体をがっちり固めていけるイメージを、特に子どもたちの活動の報告をお聞きして思いました。報告を見ていると総合文化芸術センターばかりの報告で、その裾野が見えてこないような気がしました。

副会長：ありがとうございます。このようなご意見がありました。事務局はいかがですか。

事務局：ご紹介させていただいた事業の中で、交流の一番最たるものは「市民総合文化祭」になると思います。生涯学習市民センターは各地域にあるので、お子さんが行きやすい場所です。生涯学習市民センターで活動されていることを発表していただく場として、1年に1回、市民総合文化祭を開催することで、広がって行けば良いと思い、主なものとしてあげております。

副会長：それぞれの施設でどのくらいの活動が頻繁に行われていて、どのくらいの人が参加しているかという資料はあった方が、より全体像が見えてくるかもしれないですね。その様なこともこれから工夫していただければ良いんじゃないかと思いました。ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

委員：進捗状況の説明を聞いて私も思ったのですが、確かに総合文化芸術センターとその他の施設の成績というか、できて良かったということが目的でそれは悪くはないと思います。よく使われていて良いなという話にはなったのですが、今考えるとあくまでもあれはハズなので、この報告書の意図がいわゆる全体に及ぶメインであれば、今みたいな話は確かに出てくる。ホールができているのと裾野の部分がどういう形があってどう広がったのかも結構重要になり、この計画書の重要性としても増しているんだなと思います。ホールに関してはこうした結果として理解し凄いなと思いつつ、どちらかという事業計画みたいな形で、この事業自体がちゃんと裾野を拾い上げて上手くいったのかというのが中であって、裾野が広がって投資価値がこれだけあったことがわかれば、凄く良い報告書になるんだろうなと思いました。いわゆる全体感につなげるホールができて良かったと。枚方が文化の街になったのは今感じましたね。40万人を超えたこととか、40万人が目標だったのか何万人が目標だったのかということ自体がホールの目標値になっているかと思うので、何が目標だったのか、この計画書に及ぶ表現だったのか。確かに聞いていたらホールの報告書になってしまう。逆にそう見えてしまう。今後聞く人はそう聞こえてくると思います。意図はそうしていないのかもしれませんが。

副会長：そうですね。ホールがすくいあげてきた裾野の辺が見えると、もっとホールの意味も出てくるということでしょうかね。

委員：市がやられていることがすごく浮き彫りになるんじゃないですか。多分それをつないでいるのが指定管理者ではなくて、市がつないでいる話だと思いますので。

副会長：事務局の方から何かあればお願いします。

事務局：生涯学習市民センターの利用者は自らお部屋を借りて活動される方と、総合文化芸術センターまではいかないのですが、もう少し小規模な形としての事業に来られる方の2パターンで構成されます。子どもたちの裾野ということですが、まずは市としては体験していただく、経験していただくというのを主眼にさせていただいて、私もやってみたいなというところの受け皿として生涯学習市民センターで活動されてるサークルであったり、生涯学習市民センターで行っている事業であったり、総合文化芸術センターで行っている事業に参加していただいて、実際に体験していただき本格的に進めていただくというような流れになっています。紙面上、どうしても総合文化芸術センターが中心となって記載されているところについては、来年度以降検討させていただきます。

事務局：また、「施策の柱Ⅲ」のところで、拠点である総合文化芸術センターとの関わりというご紹介をさせていただきますので、こちらの方でも説明させていただきます。

副会長：はい。では、他にいかがでしょうか。

委員：進捗状況の冊子を見て、今年凄く見やすいというか、わかりやすい、伝わりやすいというのが第一印象でした。前までは言葉だけだったのがチラシや、内容の写真があることで、ワークショップの様子や子どもたちがこういったホールでやっているというイメージがすごく伝わりやすくなっている。また、来場者数など具体的な数字が書かれていることで、これだけ市民が参加できたというのが目で見てはっきりわかり、より伝わりやすくなったというのが、ひとつ感想としてあります。後は、市民として、親としてなんですけど、中学校・小学校の子どもがいて、実際6ページの小学校合同音楽祭にみんなで合唱したというところを観に行ったり、このホールがなければ合唱はなかったというのはあるので、実際に見て、市民にこんなホールができてすごく良かったな、子どもたちが体験できるのはすごく貴重だなと実際に生で感じたことですし、オーケストラ鑑賞もです。私、もともと中部地方出身で、こちらには結婚してから来たんですが、やっぱり環境によって体験できることは違うなというものが、まさに今こうやって目に見えている。例えば高校・中学校・幼稚園で美術展が色々あることも地域によってその規模感や、やっていることも、施設も違ったりする。自分がやってきたこと、子どもの時にやってきたこと、実際に親になって枚方市で体験したりしている。アウトリーチでこういったものがみられるとか、本格的な音楽に触れられるというのを、具体的に教えていただくと凄く良かった。本当に芸術の枚方市なんだなというのがはっきりとわかるので、こうしてまとめて見せていただくとすごく伝わりました。いろんな方がこういう街なんだと客観的に捉えることも、市のイメージに繋がってくると思います。あと、総合文化芸術センターができて良かったということで、子どもたち・高齢者の方・外部の方が、有名なコンサートなどが見られるということは、良い成果だと思うので、これをいかにアピールするとか、市として知ってもらえるところまでいけば、街の魅力に繋がっていくのかなと思います。こんなにいろいろやっているんだというのがわかって、すごく良かったなという印象です。

副会長：ありがとうございます。資料は良かったですね。

委員：4ページにあります「高校演劇地区大会」。これは今まで南部生涯学習市民センターで行ってきたのですが、今年から総合文化芸術センターで開催することになり、先週の木曜日から土曜日の3日間行われました。その前にも今年の3月に地区の合同公演という形で使用させていただいたのですが、進行とか仕切りも私が行いました。スタッフさんも本当に親切な方が多くて、本当に良かった

ですね。明日から大ホールで府大会があるんです。ありがたいなと思っています。枚方からは長尾高校と枚方なぎさ高校が出ます。もしお時間があれば観ていただけたらと思います。高校演劇で言うと枚方公園青少年センターでいろんなイベントをしておられますから、箇条書とかでも良いと思いますので、そういうのも資料として載せて、後のページにも出てきますが、全部そういうところが見えていったらもっと良いのかなという気がします。

委員：5番の交流のところなんです、ウィーン少年合唱団が来てたなんて全然知りませんでした。立派なホールができたから良い部分はあると思います。一方で11ページに市民総合文化祭が【再掲】という形で入っているのですが、1番の市民の文化芸術活動はわかるのですが、外部と連携されているということで再掲なのかどうかわからなくて、別にここで再掲しなくても、他で十分に説明されているので再掲しなくても良いのかなという感想を持ちました。

事務局：外部の団体ですが、市民総合文化祭につきましては、元々枚方市内にございます文化芸術団体と実行委員会を作りまして、例えば合唱は枚方合唱協会、演劇は枚方演劇連盟、吹奏楽は枚方吹奏楽協会、それぞれのジャンルごとに枚方市内にある団体と連携し始めました。今は実行委員会形式ではないのですが、アラカルト以外の合唱、吹奏楽、演劇、人形劇、三曲、舞踊、落語、器楽・声楽につきましては、引き続き市内の団体と連携して行っております。

委員：そういう意味なんですね。

副会長：ありがとうございます。私は2ページにある「今後の方向性」として利用されたことがない方をはじめ来館したことがない市民ニーズを調査し、というようなことをお書きなんです、実際は後半に向かってどのようなことをしようとしていらっしゃるのかなと。裾野を広げるためにしていただかないといけないし、やっぱり足掛かりを作っていないといけないと思っているのですが、何かそのようなことを考えているのであれば教えていただきたいと思います。

事務局：総合文化芸術センターに関しましては、指定管理者の方に事業の実施運営をしてもらっているところですが、ジャンルが偏らない工夫は仕様書の中でもさせていただいて、幅広いジャンルを行ってもらうよう心掛けているところではあります。来年度から総合文化芸術センターの指定管理も2期目に入りますので、連携して市民ニーズの掘り起こしを協力しながら、検討していこうかと思っております。

副会長：わかりました。ありがとうございます。「施策の柱Ⅰ」についてはだいぶ成果が出てきている感じで良かったのではないかと思います。ありがとうございます。それでは「施策の柱Ⅱ」について事務局から説明をお願いします。

事務局：(案件(1)令和5年度における枚方市文化芸術振興計画の進捗状況について「施策の柱Ⅱ」を説明)

副会長：ありがとうございます。ただいま事務局よりご説明がありましたけれども、この「施策の柱Ⅱ」について皆さんのご意見をお聞きしたいなと思っております。お願いします。

委員：19 ページにある「子ども大学探検隊」はすごく良い取り組みだなと思います。参加人数が少なくても、すごく丁寧な貴重な体験をさせていると思うので、是非ともこれからも続けていただけたらと思います。以上です。

副会長：ありがとうございます。どのような感じでしたか。

事務局：ありがとうございます。定員につきましては、参加人数を見ると少ないかなと思うのですが、大学が手厚い対応をするために、大学側の要望でこの人数で募集しております。例えば、関西外国語大学の「英語を使ってみよう試してみよう」や関西医科大学の「医療に触れる」では実際に触れるなど体験していただいていますので、毎年すごい好評をいただいております。今年もそれぞれ定員を上回る応募があり、大学にも定員を増やしてもらうように話はしているのですが、増やすと精度が落ちてしまうということで、この定員でお願いしますとのお返事をいただいております。

委員：文化芸術なのか生涯学習なのかという分野で言うと、この分野で生涯学習の世界観、子どもたちも含めてなんですが、このカテゴリーが文化芸術に絞った会話でまとめられるのか、生涯学習に踏み込んだものなのか、ちょっと何かが違うなと思います。文化芸術との関わりで大学に対して何か少し違うのではないかなというのがあります。理系しかない大学だからと理解をしつつも、もう少し違う大学生の活動であったり、文化芸術と言われた時に何か言葉尻がちょっと違うのかなと思います。

委員：それから 18 ページ②のひらかた人形劇フェスティバルとプレフェスティバルの会場と来場者数は正しいですか。総合文化芸術センターが 234 人というのは。牧野生涯学習市民センターと逆の可能性もありますか。

事務局：プレフェスティバルは総合文化芸術センター小ホールで実施した事業であり、小ホールの定員は 324 人ですが、人形劇は大きな舞台設備で見切り席がとて多いので 234 人となっています。そして②の来場者数の 2,602 人というのは牧野生涯学習市民センターの各諸室でいろんな劇団にやっていたので、その全体の集計結果です。

副会長：「施策の柱Ⅱ」の 4 で大学が事業者となっているから、ここに入らざるを得ないような感じなんですかね。

委員：大学で文化芸術に関してはなかったのですか。

事務局：過去に文化芸術に関するテーマで講演をしていただいたものはございました。数年前に市民大学で関西外国語大学にチェロの詳しい先生がいらっしやいまして、チェロのコンサートを交えた公演を行っていただきました。

委員：資料には総合文化芸術センターとだけ書かれていますが、小ホールやイベントホールなど色々なホールがあり、ホール名が書かれていないとイメージしにくいということと、記録として見るとここにこういうホールがある、こういう場所があるという形の方が、先ほどの人形劇でも小ホール、②

のひらかた人形劇フェスティバルの開催だったら開催期間の問題もあるでしょう。事務局の方にはご負担をかけますけれども、細かく書かれた方が知らない方が見た時に資料としては良いのではないのでしょうか。

副会長：人数が少ないことも、場所の詳細が書かれていたら理解できますね。

事務局：次回から対応します。

委員：私は19ページの「子ども大学探検隊」が気になりました。確かにこの内容はすごく面白そうだなと思いましたが、少ない定員なんだなとびっくりしたというか、折角すごく楽しそうなのになかなかこの人数しか体験できないのはちょっともったいないと思ったところで、先ほどのご回答だったので、実施するにもやはり多すぎると対応できないのかなという点もあったのですが、例えばみなさん折角iPadが配られていて、ICTのデジタル化で勉強できるという環境なので、体験している様子などを撮って、子どもたちが後から見ることができたり、この人数以上に広げる価値があるのではないかなとも思いました。結構子どもたちはYouTubeで何をしているのか動画を見て知ることもいっぱいあると思います。大学についても、大学生と子どもが触れ合っているのを見れば、身近になり、子どもにとっても勉強になるのかな。何かそこでミックスしてもらえると参加できなくてもタイミングが合わなくても経験できたりするのかなとも思います。先ほどの文化芸術に関する事なのかどうかは、言われてみれば生涯学習の方なのかあとから聞いて確かにと思いました。例えば大学との連携・芸術のことにすることであれば、サークルとかもあると思いますので、大学のクラブの発表展を見ることが出来たり、音楽や美術の芸術活動をしている人たちとの関わりで、気軽に大学に行けるようになったり、関わることも体験としてできるのかなとも思いました。また、芸術方面でというのであれば、大学および団体が行う文化芸術に関する地域貢献活動の促進のところに当てはまるのであれば、そういった方法もありなのかなとも思いました。また、市民文化賞は初めて知ったところで、広報ひらかたを何気なく見ている間に、賞をもらいましたというのを多分見ているのかもしれませんが、広報ひらかたにしか情報がないのはもったいないといえますか、なかなかそれを全部見ている市民がどのくらいいるのかなというところで、今後の周知でどんなアイデアという可能性があるのかなというのが、もしあればお伺いしたいです。

事務局：市民文化賞は令和5年度もこの1件で、令和6年度は現状0件です。令和4年度は3件でした。その大会が全国規模なのかどうか判断が難しいところもありまして、例えば、有名なコンクールで金賞を受賞されたらわかりやすいのですが、小さい規模の大会で金賞を獲りましたとなると、それが市民文化賞に該当するかどうかの判断も市で精査しています。市民文化賞があることもご存知なかったということなので、しっかり発信していく必要があるのかなとは思っています。記載はしていませんが、広報誌とホームページにも載せています。

委員：Instagramなどでもいいかもしれませんね。@i-am-in-hirakataは枚方つーしんと同じ感覚でフォロワーも増えて、市役所の広報の方が頑張ってくれているんだろうと思います。やはりSNSなどは身近で気軽に市の活動内容を知ることができます。SNSは遡ってこんなものがあるんだと見ることができますが、ホームページでは探し出すのが難しいです。「X」でもなかなか検索するのは難しいかなということもあって、Instagramが一番市民が気軽に見られるのかなと思います。とても良い取

り組みなので、もし今年がないとしても、こんな賞があるよと伝われば、私も獲りましたみたいな人が出てくるかもしれないと思います。

事務局：ちなみに20ページの⑤枚方信用金庫のひらしん美術展ですが、今年は第4回ひらしん美術展を先週まで行っていましたが、20年ほど前に市民文化賞を獲とられた高畑雅一さんがこのひらしん美術展で出品しておられまして、会場の入口に市民文化賞の賞状を置いてくれてました。高畑さんは若いころに取られて、現在も世界で活躍されている方なのですが、大変光栄に思いました。

委員：それを見ることによって、何十年後かにその方の思い出というか糧になっているということは大事なことですよね。

事務局：その方にとってはすごく大切なものなんだなあとありがたく思いました。

委員：市からもらうというのは、すごく大きなことなんだなと思います。

副会長：今おっしゃるように Instagram とかに載せたら、1回だけではなくずっと見られますよね。印刷物はそのまま無くなってしまいますけどね。

委員：僕は枚方市民ではないため広報が来ませんので Instagram でないと見られません。選定基準はどのような内容ですか。

事務局：選定基準は、全国規模の大会で最優秀賞というようなものです。

委員：今ちょうど各大学の推薦入試の時期なんですけど、推薦項目にあげている大学もあるんです。スポーツでは何々大会で何位以上などの基準もあるので、スポーツの場合はわかりやすいんですけど、文化芸術は本当にいろいろあります。その基準が全国大会といわれると、高校演劇が一番厳しいんです。地区で勝って1位で府の大会。府の1位で近畿大会。大阪代表1位になっても全国には出られません。全国大会は近畿から1校だけです。近畿でしたら全国大会に該当しないですよ。ただ一律に全国と言われると難しい。いろいろジャンルや部門によっては全国にわりと出やすいところもあるかとは思いますが。

事務局：市民スポーツ賞もありまして、それも同じ基準です。先ほどの話ですが、高畑さんは当時全国で世界の切手デザインコンクールで優勝されて、そのデザインの切手が発行されたという方です。高畑さんみたいにやはり大事に思ってくれるということは、広く贈呈するものではないのかなとも思います。検証していく必要はあるのかもしれませんが、市民文化賞という枠はどうしても一番上ということになりますので、少し厳しいのかなと思います。

委員：私は計画書の今の評価のところ、枚方シティオペラの記載がありますが、令和4年や令和3年の実施だったのでしょうか。総合文化芸術センターで開催したと書いてあります。

事務局：枚方シティオペラは令和5年度は開催を見送りまして、令和4年度と今年度の令和6年度に実施し

ています。理由としては、枚方シティオペラは枚方市独自の文化芸術ということだったのですが、指定管理者と協議しまして、どうしてもオペラだけに偏ってしまうと他のジャンルができないので、令和5年度は実施しておらず、記載していません。

委員：了解しました。

委員：報告を聞いて、非常に広い分野でいろんなことを発信するという、この施策の柱に沿った活動をたくさんされていて凄いなと単純に素直に思っておりますが、私も先ほどの市民文化賞が少し気になっていまして、市役所の方が一生懸命検索して探さないといけないことは、もったいない気がします。一つ質問なのですが、なぜ国内なのか。国外でも良いのではないですか。海外で活躍されていて世界的に認められている方とか、そのようなところまで広がりがあっても良いのではないかなと思いました。ダンスなんてオリンピックもあって、スポーツなのか文化なのかはわかりませんが、世界に認められている方も多分いたんじゃないかなと思いますので、そのような方も拾い上げていたら広がるのではないかなと思います。国内の大会だけで、優勝だけで探しているとなかなか難しいのかなと気になりました。私も高畑さんの美術展を見に行きましたが、確かに貼っていました。国連の切手デザインに選ばれたすごい方が、そうやって名誉に感じていただいていることを今改めて知りましたが、凄いなと思いました。

副会長：大阪府ではいろんな方からの他薦があって、その中から選ぶ大阪文化賞というのがあります。それは市民の方や他にも色々な推薦人の方に、ずっと昔の業績ではなく、この1年にどんな事をされたかを推薦してくださいというものです。それを委員が選ぶといった感じですが、それは別に優勝したとかではなくても将棋で活躍したとか、何かで活躍されたとかという感じで、どちらかという話題性のある人が選ばれます。

委員：イメージ的にはそちらをイメージします。

副会長：そうですね。例えば、今年でしたらOSKがすごく有名になっているのではないですか。枚方市出身の翼和希さんという感じで推薦される。そういう枚方の話題性を高めるといったような、そのような賞の作り方もあると思います。毎年出ないのであれば、是非そのようにして盛り上げていくみたいなことも考えられないことはないかなと思います。すごく手間ですが表彰というのは色々な形があるかなと思います。そうしたら先ほどの演劇でもみんな活躍したと思えば贈呈するのもありかなと少し思いました。では、色々皆さんからご意見をいただいたのでここから「施策の柱Ⅲ」について事務局からまたご紹介いただいて議論していきたいと思います。

事務局：ちなみに先ほどの委員のご指摘なのですが、市民文化賞の要件として、国外も対象となっております。

委員：なるほどね。国際もですか。

事務局：今までに例はありません。

委員：わかりました。

事務局：(案件(1)令和5年度における枚方市文化芸術振興計画の進捗状況について「施策の柱Ⅲ」を説明)

副会長：ありがとうございます。時間があまりないので、ここは全員にというより、発信等についてご意見のある方がいらっしゃるかと思しますので、その方に是非ここで言っていたきたいなと思います。いかがでしょうか。

委員：枚方市の Instagram はフォローしていて、結構情報が入ってくるのですが、前も別の方がおっしゃるように Line で枚方市というのがあります。それも枚方全般のイベントを、高齢者・子育て世代・障害者の方に向けての情報発信しているのですが、例えばアートに関するアカウントを作ったらどうかとの意見もあると思います。バラバラというんなものがひとつの SNS のアカウントに入ってくると、どの情報がアートなのかわからないということもあります。もちろん枚方市の Instagram に発信するのもアリですが、やはり美術・芸術・文化などに興味があり、ただ取りたいと思う情報が細分化されていると取りやすい。興味があるなと思って、1回フォローしたら勝手に流れてくるとい仕組みみたいなもので良いのかなと思います。先ほど言った Line アカウントに文化芸術を作るとか、Instagram や Youtube ・「X」でもなんでもいいのですが、何かジャンルを作っていくというのがあります。なかなか紙媒体をその場所や枚方市役所まで取りに行くのは難しいのではないかと思います。例えば青少年センターはすぐ近くなのですが、今は空いてしまっていますが、昔は下にスーパーがあって、図書館と音響ライブができるというのも知ってはいるのですが、なかなかそこに行く機会がありません。多分その施設にはこういうのをやりますという張り紙が貼ってあるのだろうと思うのですが、興味ある人が申し込みにたどり着くまでが、なかなか難しいのかなと思います。折角こうやって企画していただいているので、どうしたら興味のある方へうまく届けられるのかということが、たぶん次の段階のテーマなのかなと思いました。

副会長：ありがとうございます。他にどうでしょうか。

委員：発信の工夫はいかに情報を一般の人の目に触れさせられるかという手段だと思います。発信は枚方つーしんというのがありますが、やはり一般市民がそれに触れる連鎖というのが今の時代なので。いかにリアルな感動を表に出してくるかというのは、次のこの整理と情報の発信に関わる意味で、大事なのかなと思います。

副会長：ありがとうございます。今回のこの部分に対しての話はここまでと考えていますが、言い残したことや違う角度ではあるけれど、これだけは言っておきたいというのがあれば、是非お話いただきたいと思いますがいかがでしょうか。皆さんのお話を色々お伺いできたと思うのですが。

委員：SNS 関係は、若い職員さんもたくさんおられるかと思いますので、Instagram ・TikTok など、担当者を決めて発信するか。テレビを見ている人は多いですが、若い人はあまり放送は見ないんですよ。新しい施設ができた時に民間放送及びNHK も含めてコンタクトを取って何か取り上げてもらうようなことももう少し強化していただけたら。

委員：枚方にはパナソニックパンサーズがあって、試合のチケットが取れないらしい。今、T-SITE 8階のカフェバーに、バレーボールで話題になっている人たちが来るらしく、そこが聖地になっている。嫌らしい言い方ですが、今後そういう誰かアイドルを育てて聖地化する必要もある。大人が難しく考えるより、意外と今の若い人たちにはそういう軽さというのも重要なのかなと思います。

副会長：今日は色々ご意見を出していただきましたので、できるところは是非、次の企画とか報告書にも入れていただきたいと思います。今回ものすごく見やすくなっているし、やはりその見やすさでインパクトがずいぶん違うと思いますので、していただけて良かったなと思いますし、その感じで今日のご意見も是非取り入れてやっていただきたいなと思います。それでは1. 案件は終了で、2. その他について事務局からご報告をお願いします。まず指定管理者の選定についてです。

事務局：それでは、指定管理者の選定について事務局から説明させていただきます。こちらはご報告となります。お手元に「H-Art」というものをお配りさせていただいたのですが、総合文化芸術センターの指定管理者が作成しているものです。今の指定管理者の指定管理期間が令和7年3月末で終わることになっており、今年度の当初から次の指定管理者の公募を行い、選定が終わりましたので、そのご報告をさせていただきたいと思います。結果としては、今の指定管理者が引き続き総合文化芸術センターの管理運営を担っていただくことになりました。続いて、元々枚方市駅に隣接するサンプラザ3号館内にサンプラザ生涯学習市民センターがございましたが、8月末で閉館し、新しく駅前にできましたステーションヒル枚方の行政フロア5階に移転し、生涯学習交流センターという名称に変更し、市駅前図書館と一体で運営をしています。指定管理者制度を導入しており、株式会社図書館流通センターが指定管理者となっています。図書館業務がメインの事業者ですが、生涯学習交流センターも合わせて運営していただくことになっています。資料につきましては、お時間があるときに見ていただけましたらと思います。指定管理者の選定の報告は以上となります。

副会長：ありがとうございます。ただ今2つの施設の指定管理者の選定についてご説明がありましたが、このことに関して何か意見や質問がありましたら、お受けいたしと思いますがいかがですか。

事務局：駅前施設になりますので、生涯学習交流センターと総合文化芸術センターが連携した事業を実施したり、逆に総合文化芸術センターの事業を市駅前図書館の事業につなげていくという連携を2期目からは考えていただく予定をしています。

副会長：そのような連絡会議のようなものはあるのですか

事務局：月に1回、所長会議というものを開催しています。各生涯学習市民センターの所長と総合文化芸術センターの職員に来ていただいて、そこで話し合っています。

副会長：共同事業というものまではいかないですか。

事務局：そうですね。今検討している段階ですので、いずれ形ができれば良いなと思うのですが、どうしても別々の民間の指定管理者が運営していますので、できる範囲が各社あり、その調整をしていただいております。

委員：TSUTAYAの話ではないのですが、本とコンテンツ部分で、例えばウィーンフィルハーモニー管弦楽団が来ますよと言われたときにそれに関わる本を集約させて、本でいうと平台みたいなものを用意して、情報というか知識の啓蒙と実際する絵のコンテンツと連携させていくとか、T-SITEでいくとそんな感じだと思います。行くと興味が湧くとか、本が先か演出が先かなんですが、公演に行ったあとに寄ったらそこにパンフレットがあって実体験が出来るんだみたいな事業連携があって、どちらからというのがありますが、借りる方も促進されるし、PRにもなる。

副会長：やりやすいですね。それだったら。

事務局：のだめカンタービレに関するコンサートを生涯学習交流センターのオープニング事業でさせていただいて、今度、総合文化芸術センターの大ホールでオーケストラバージョンをさせていただき予定です。今後も指定管理者の提案で総合文化芸術センターとも連携して事業を展開していくということもあると思いますし、T-SITEとも色々連携して事業をさせていただいておりますので、その延長の中で今お話しいただいたことを活用させていただくなどして、さらに深めた連携していけるように、指定管理者と検討したいと思います。

委員：何か濃いノベルティを作って、紙袋とか演目の入った袋とかカッコ良いノベルティがあれば、オシャレだなというだけで行くと思います。蔦屋書店の袋効果ですね。レンタルのブルーのTUTAYAと違って、T-SITEという蔦屋書店の袋効果で、あれを持っているだけでも今後ありかなと思うんです。お金がかかるとなると負担を強いる部分があるのかも知れませんが、持っている効果はあると思います。東横インとかもロゴを変えましたからね。それでお客さんたちも変わり始めているといいます。ターゲットを明確にしていく。そろそろそういう発信も次のステップとしてはあるのかなと思います。

副会長：ありがとうございました。では最後になりますが、今後の進捗管理について事務局からご説明をお願いします。

事務局：今回の令和5年度の進捗管理は、改定前の旧計画の最終年度の確認となりました。来年度からは令和6年度分の進捗状況の確認となりますので、皆さんにご審議いただきました改訂版を基にした進捗状況の確認ということになります。進捗状況の管理方法につきましては、様々な方面から色々求められてはいるのですが、例えば庁内会議におきまして、計画の進捗管理については一定指標に基づいて進捗管理を行うことも検討してはどうかという意見がありました。事務局でも検討させていただいたのですが、どうしても計画が文化芸術に関することですので、数的な指標はなじまないという考えもあります。例えば中学校オーケストラ鑑賞事業なのですが、中学生がホールに何人来たか、それは何人来たからというもので満足度を計ったことにはならないかと思います。要はそこに行っただけが満足したから良かったというのではなく、このホールに来て音楽を鑑賞していただいて、それを興味のない子が興味を持ってもらったら良いなど、色々な視点で事業を行っておりますので、ひとつのことだけを求めて、悪かった、良かったというものでもないのかなと思います。やはり文化芸術を継続して行っていくことによって裾野が広がったりするものですので、なかなか指標化とか満足度というものだけでやってしまうと、どうしても満足度だけを追求していくことにな

ります。例えばポップスなどお客さんが入るような趣旨の偏った事業に集中してしまう恐れがあるのかとも考えております。委員の皆様には、計画の改訂版を策定していただいたばかりですが、この改訂版は今後5年間の計画となっておりますので、次の計画を策定するにあたりまして、ここで決めるということではありませんが、少し参考までにどのような方向性が良いのかという、あくまで参考としてご意見を頂戴したいと思います。

副会長：なかなか難しいですね。何かご意見があれば。

委員：まさに、興味という言葉は先ほどの話でSNS だと思います。SNS マーケティングでリアルな実数がわかる。興味があるかないかというところの実数はなかなか測れないですが、見るか見ないかというところに初期初動で評価を入れるというのは多いです。マーケティングとしては、先ほど言ったとおり深みにはまれば満足度は多様化して、良い言葉で言えばダイバーシティなので、そこに評価はあまり意味がないんですよね。だから、そもそもそのような活動を評価するためであれば、それにアクセスして発信していかんが重要で、それを評価するのは個人の満足だと思います。タイミングよりいかにそれだけ情報としてのアクセス数が増えて、これだけの媒体があるということだと思うんです。今の時代、それがどの行為、市民からどの領域まで行くのかも、ひとつの評価かもしれません。

副会長：難しいですけど、そのホールにしても枚方の人がどう見たかという感じではないんです。いかによそから来ているかというのもあるし、それもひとつのポテンシャルだと思います。もっと集めるためにはどうするのか、そんな少し細かいデータも必要なかなと思います。でないとそこは漠然としすぎてしまって、今何人来まただけになっているようなデータや、ただ何%入っただけではなく、もう少し細かくどこから来ているのかとか、時々そのようなアンケートも取ってみる。今、市民アンケートも少し大まかなのは取っていらっしゃいますが、今までもやはり本当のことはわからないと思っていました。もう少しターゲットを絞ってでも良いから、全体ではなく少しでもリサーチしてみるというのも手ではないかなと思いますけどね。

委員：総合文化芸術センターで結構アンケートを取っていらっしゃいませんか。

事務局：指定管理者が実施しています事業のアンケートは共有していただいています。ここに記載している事業は、指定管理者の主催事業ですので、活用はさせていただいています。

委員：せめてそれだけでもどこから来たとか、基本的な集計だけでも見ていけば、流れがわかるかもしれない。

副会長：チケット購入者の情報は見えないのですか。購入はデジタルではないのですか。

委員：基本的にはデジタルですよ。

事務局：そうですね。どのエリアの方が買っているかくらいはわかります。その様な分析はできますが、今回求められているのは評価なんです。分析して、より多くの方を集めるような勉強的な分析はして

いかないといけないと思っているのですが、評価するにあたって、市外から呼べたらそれがマルなのかとか。

委員：評価はゴールをしっかりと定めないと評価できない。何をもって評価するのか。

副会長：それを打ち出す方が先ですね。

委員：その目標・評価が、市として評価する基準なのかというところがないといけない。多分、相対的になると今おっしゃったとおり、単純な希望要望に答えてないとなれば、それが狙いではないはずで

事務局：例えば、今指標では、市の総合計画という最上位の計画がありますが、そこで「文化芸術の環境の整ったまち」という項目があります。以前、総合文化芸術センターができる前の満足度はとても低かったのですが、開館して満足度がポーンと跳ね上がりましたが、次にとったらどうなるのかなと思います。出来てもみんなが慣れてきてしまうと下がるのか、活用されて上がるのかはわからないのですが、その時の流れによって落ちたりもするので、一定指標としてあっても良いとは思いますが、満足度が上がれば良くて、下がれば悪いというのは違うとは思いますが。

副会長：でも、兵庫県西宮市などはいつも上位にくるからすごく地価も高くなって全体のレベルが上がったとみられる訳です。やはりそのようなものが必要だと思います。だから変化を見るものではなく、やはり自分たちの実感としてどうなのかも、取っていかないといけないのではないのでしょうか。

事務局：ありがとうございます。先ほどの説明の中で、元々我々指標は取っておらず、これから取っていかないといけないのではないかという課題認識は持っております。計画の中には柱が3つございます。今日も皆さんからそれぞれ貴重なご意見をいただきました。ひとつが「交流」、それからふたつ目に「育み発信して」3番目が「魅力ある街づくりへ」という形で定めてはいるのですが、実は我々も気が付いていないだけで、本日先程もいただいたような色々なデータのもとになるようなものをそれぞれ持っているのではないかなと思っています。審議会としてこのような場を設けておりますので、そういったところをうまく考えて、こうした形でキャッチボールをしながら高めていきたいなと思っておりますので引き続きよろしく願いいたします。

副会長：ありがとうございます。今日用意された議題はこれで大体終わったかと思いますが、他に何かございますでしょうか

委員：今の評価にも関わると思うのですが、コロナの時はできませんでしたが、今は紙のアンケートを書いてもらっています。その場で書いて出す人は何か本当に良いなと思った人だけで、これは面白いなと思った人はあまり書かないですね。そこで最近は紙で書いてもらうのとQRコードから読み取ってもらうのとダブルで行くんですよ。紙のアンケートでは、その場に残って書くのは忙しいし、なかなか時間やスペースも取ってしまいますが、ひょっとしたら悪いこととか誰かわからないということも含めてですが、QRの方はやはり返ってくるんですね。評価は本当に難しいと思います。あと、市としては難しい部分があるのかと思いますがYouTubeなんかはどうなんですか。色々

なものをあげると見る人は見ると思います。若い人はYouTubeばかり観てテレビなんかみないんですから。やはりそのような面の活用が上手く出きればというように思っております。

副会長：はい。ありがとうございました。今後の課題ですよね。そのような新しいメディアにどう対応していくのか。どこまで信頼できるのか。そういうことも含めて色々トライはしてみる必要はあるのかもかもしれませんね。ありがとうございました。

委員：前から思っていることですが、枚方市駅を中心に北・南・東・西で少し色ができつつあるのかなと思っています。特に③街区の再開発でできた商業、オフィス、ホテルの色と文化芸術、医療、歴史街道につながるもの。あと南側はたぶん今後作られていく緑が広がって市民がそこで賑わいとか憩いとか、そのような色が出来つつあるのかなと思っていますが、指定管理者が更新されたということなので、枚方市駅を降りて北側に向かって駅を出て進んだら、さあこれから文化芸術に親しむワクワク感を感じるような。北側のロータリーも新しくするので、何かそういう文化芸術の空気感があるような街並みというか、それが北側に向かって伸びるような、是非そのような街づくりをして、何かそんな空気感を出せたら目茶苦茶枚方市は楽しくなって良いのではないかなと思っています。よろしくをお願いします。

副会長：街づくりですね。ありがとうございました。色々ご意見をいただけて良かったのではないかなというように思いました。その他に何かありますか。ないようですので、以上で令和6年度 第1回枚方市文化芸術振興審議会を終了とさせていただきます。ありがとうございました。

事務局：ありがとうございました。